

被ばく低減対策好事例集

場所		分類		番号	01-21
原子炉建屋内	RB	Z	7		
タービン建屋内	TB			2	距離
R ZONE	R			3	遮へい
Y ZONE	Y			4	線源の除去
G ZONE	G			5	遠隔、自動化
その他 ()	Z			6	汚染拡大防止
				7	その他

内容 リモートモニタリングシステム (RMS) の活用 (その1)

作業部位 主プロセス建屋他

概略 RMSは、監理員等の被ばく低減に有効であるが、従来のRMSは大型・重量物で設置場所の制限等があったが、小型・軽量のRMSを開発し、併せて使い勝手を向上させた。

評価 定性・定量	効果	対策前		対策後		
		被ばく線量(mSv)	--	--	--	--
		人工数(人日)	--	--	--	--

事例詳細

対策前 被ばく低減のためにRMSを使用していたが、装置が大型・重量物等簡単に設置ができなかった。

対策内容 小型・軽量のRMSを開発し、従来のRMSに代わって使用した結果、設置撤去が容易で被ばく低減に有効であることが確認された。

- 設置スペース、重量があり、簡単に設置できない
- 無線式APDの電池の消耗、自身での線量確認機能
- 通話装置本体の大きさ
- APDと通話装置、個別にネットワーク構築が必要
- 英語によるソフトウェア・機器の表示



監視用PC1台と 情報端末、線量計各10台を1セット

線量計は乾電池1本で約4ヶ月稼働、情報端末は専用スタンドで充電

現場で、情報端末により自身の線量確認が可能

各種機器の無線通信はWi-Fiで統一

現場設置機器 (カメラ・中継器) に防塵・防水機能

日本語によるサポート体制

